

シリーズ  
原発・いのち・みらい  
その35

原発問題に詳しいドイツ在住ジャーナリスト  
**ふくもとまさお氏**  
**迎え内部勉強会**

平田 米里（野々市市・歯科）



講師のふくもとまさお氏

今回、講師の目的は「低線量被ばくによる健康への影響を示すこと」と明確だった。

二〇一四年にドイツ連邦会議の学術サービス部が、国連科学委員会報告書「二〇一一年東日本大震災後の原子力事故による放射線被ばくのレベルとその影響」に疑問を呈するインフォレターを公開したように、単に国際放射線防護委員会（ICRP）、日米共同研究機関である放射線影響研究所、International Atomic Energy Agency (IAEA) などによる資料を用いるだけでは、真実に迫れるはずもないとの判断が働くのは必然である。そこで、ふくもと氏は三十年間という長いドイツにおける活動を活かし、信頼のおけるドイツの研究をベースに報告された。

一 広島と長崎への原爆投下後の出生性比(男女比)の変化

ドイツの公的機関に勤める研究者ハーゲン・シエア氏は、日本における原爆投下後の男女の出生比率が一九三五年〜一九四四年と、一九四五年〜一九五二年において、広島・長崎とその他の地区では差がないと仮定して統計分析したところ、データは荒いものの、その仮説は小さな危険率で否定された。つまり、有意の差で四倍となったことを示した。これは、放射線影響研究所の「放射線の遺伝的障害の指標として性比に関する情報は有益でない」とする「立場を真つ向、否定

二 大気圏核実験の影響

先の大戦末期から、米ソ仏などによる核実験は一九六〇年ごろをピークに一九九〇年ごろまで続いたが、それが乳幼児死亡率と死産率の変化に与える影響を、アルフレード・ケアブライン（独）などが西ドイツやイングランド、ウエールズのデータをもとに報告している。日本では自然死産、人工中絶の届出が不正確な恐れがあることなどにより、戦争前後の信頼できるデータが乏しいのだが、彼は、出生数や死産数、そして受精した全数を分母にするという試験的な解析を生み出すなど、様々な統計学的補正を駆使して日本の自然死亡率を算出しようとした。補正後に得られたグラフは、一九五〇年ごろから徐々に増加し、一九七〇年にピークを迎え、チェルノブイリ事故後にも一つのピークが描かれるというきれいなものであった。

出生性比に関しても、米独が一九七〇年ごろにピークを迎えるのと似たように、日本でも一九六六年の丙午の年を除けば同じ傾向が見られた。これを見ると、かつては化学薬品、人工性ホルモンなどの影響だと指摘されることもあったが、放射線の影響だと言わざるを得ない。その影響は女兒に現れると、シエア氏は主張している。

三 チェルノブイリ原発事故の影響

西ベルリンにおけるダウン症や小児神経芽細胞腫の増加、同バイエルン州における先天異常の増加が報告された。

四 東京電力福島第一原発事故の影響

二〇一四年にドイツの「放射線テレックス(六百五十一六百五十一号)」に掲載された論文をもとに解説した。高濃度に汚染されたところ、それを除く日本各地との間で、死産、自然死産、一歳未満の乳児死産を比較したものである。ドイツのパイエルン州では一九八七年



濃密な講演を行っていただいた（9月24日・保険医協会会議室）

おしどりマコさんとおしどりケンさんは、よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属の芸人さんですが、福島原発事故後、東京電力の記者会見に最も多く出席しているフリージャーナリストでもあります。

マコさんは出身地の神戸で「阪神大震災」を経験、鳥取大学医学部生命科学科を中退し大阪で芸人の道へ進みました。2011年東京に転居した3ヶ月後に「東日本大震災」に遭遇、震災後の原発事故に関しては一般の方向様に漠然とした恐怖感を感じていたそうです。しかし、あるきっかけから東京電力の会見に参加するようになり、知識を深めることで徐々に冷静に考えることができるようになったそうです。そして知ることが力になることに気づき、周囲の人々にも知識を広めていきたいと思い、フリージャーナリストとしての活動を始めました。現在では、最も原発関連に詳しいジャーナリストとして、雑誌『DAYS JAPAN』の編集委員も務めています。

原発事故から4年が経過した現在でも、汚染水等の問題は全く解決していませんし、事故を起こした原発の後始末は数十年以上先になると言われています。また、原発事故の汚染地区は福島県に限定されるものではなく、その影響は日本全体の問題です。

石川県にも志賀原発があり、隣の福井県には多数の原発が存在しています。今回の講演会ではお二人に原発事故の最新情報を伝えていただきながら、原発のこれからについて皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。

原発 いのち みらい シリーズ講演会 第10回  
**漫才を武器に、原発事故を追い続ける!**  
芸人ジャーナリスト  
**おしどりマコ・ケンの福島取材報告**

講師 **おしどりマコ、おしどりケン**

とき **2015年11月29日(日)**  
午後2時～午後4時まで

ところ **金沢都ホテル 5階 加賀の間**  
(金沢駅兼六園口(東口)正面)

●対象 / どなたでもご参加いただけます(定員150人)  
●参加費 / 無料(託児あり) ※詳しくは同封の案内チラシをご覧ください。